

第30回全国街路事業コンクール 第2次審査用資料

ふりがな 応募者名		ながおかしどぼくぶどうろけんせつか 長岡市土木部道路建設課
街路事業	ふりがな 事業の名称	ながおかしとしけいかくどうろじぎょう 3・2・31ごう だいまちかわさきせん 長岡都市計画道路事業 3・2・31号 台町川崎線
	ふりがな 事業主体	ながおかしどぼくぶどうろけんせつか 長岡市土木部道路建設課
	ふりがな 実施都市名	にいがたけんながおかし 新潟県長岡市
事業概要 (400字以内)		本事業は、長岡市が整備を進めている『ラダー(梯子)型広域幹線道路網』の一翼を担う台町川崎線について、長岡駅東土地区画整理事業と連携を図りながらまちづくりの骨格として整備を完了させることにより、市街地の活性化を促進し、都市のさらなる発展を図るものである。既成市街地において大手橋の架け替えを含む4車線化整備を実施し、交通結節点であるJR長岡駅と国道17号を直接結び、交通の円滑化、広幅員の歩道整備による安全で快適な自転車歩行者空間の確保、除雪作業の効率化による冬期の通行確保、防災機能の強化を図るものである。また、電線共同溝の整備による無電柱化・道路植栽により良好な街路空間を創出するものである。
事業規模		○事業延長 : 623m(橋梁部38. 5m) ○幅員 : 32. 0m ○事業費 : 約44. 2億円 ○事業期間 : 平成18年度～平成28年度
事業の目的		都市計画道路台町川崎線は、JR長岡駅と国道17号長岡東バイパスを結ぶ重要な幹線道路であるとともに、沿道には行政機関や県立高校が2校立地するなど市街地の骨格を形成している。平成16年から隣接地において長岡駅東土地区画整理事業が行われ、大規模商業施設等が立地するなど良好な住環境と利便性が両立した質の高い新市街地が創出された。本事業は、区画整理事業と連携し、広域交通体系や中心市街地へのアクセス向上を行うことで、市街地形成の促進を行うとともに、これによる都市全体の活力向上を図るものである。
事業効果 (効果一覧を参考に具体的な効果を記入)		①土地区画整理事業と連携して市街地形成による雇用創出と人口増加に寄与【生産性向上効果】 ②国道17号から長岡駅周辺の中心市街地へのアクセス向上と活性化に寄与【生産性向上効果】 ③長岡駅と高校等を連絡する安全で快適な歩行者・自転車の通行空間を確保【安全・安心効果】 ④防災機関の連絡路や住民等の避難路として地域防災力の向上に寄与【安全・安心効果】 ⑤バス交通網の形成や円滑性向上に寄与、快適なバス待ち空間を確保【生活の質の向上効果】 ⑥良好な道路景観を形成、栖吉川付近は学校・河川と連携した景観ポイント【生活の質の向上効果】
地元対応等	・地域住民との協働等 ・事業反対等があったか ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	・大手橋の架け替えにあたり、高校のグラウンド等を借地し、仮橋・仮設道路を設置することにより通行止めすることなく長岡駅周辺市街地の交通確保を図った。 ・沿線のマンション管理団体から地先の植栽帯を花壇として利用したいとの申し入れがあり、維持管理を含めた利用について認めた結果、四季折々の花々を楽しめる植栽帯となっている。 ・4車線化に伴う中央分離帯の設置による乗入制限や周辺道路の交通規制(一方通行)について、丁寧に説明し理解を得た。また、大手橋の長岡高校側に横断歩道と押しボタン式信号機を設置し、栖吉川堤防を散策路として利用している市民が安全に道路を横断できるように配慮した。

完成全景

平成28年10月撮影



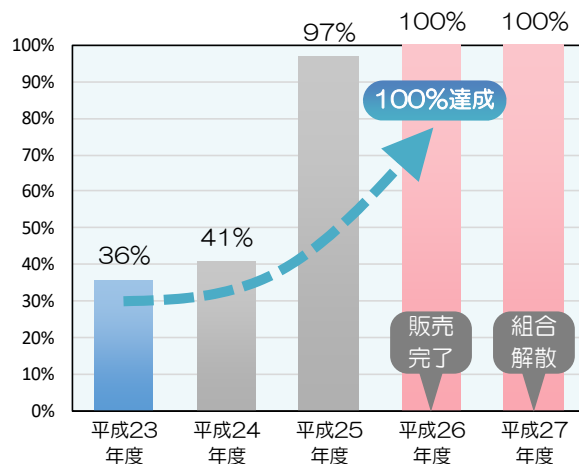
整備効果アピール資料

整備効果

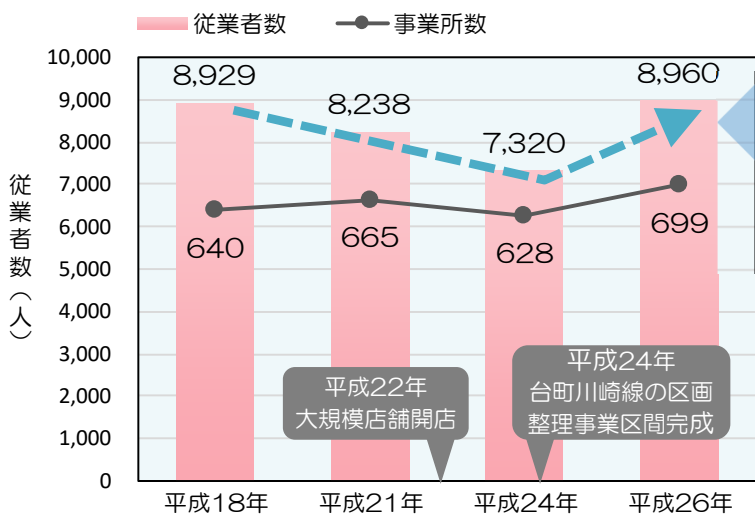
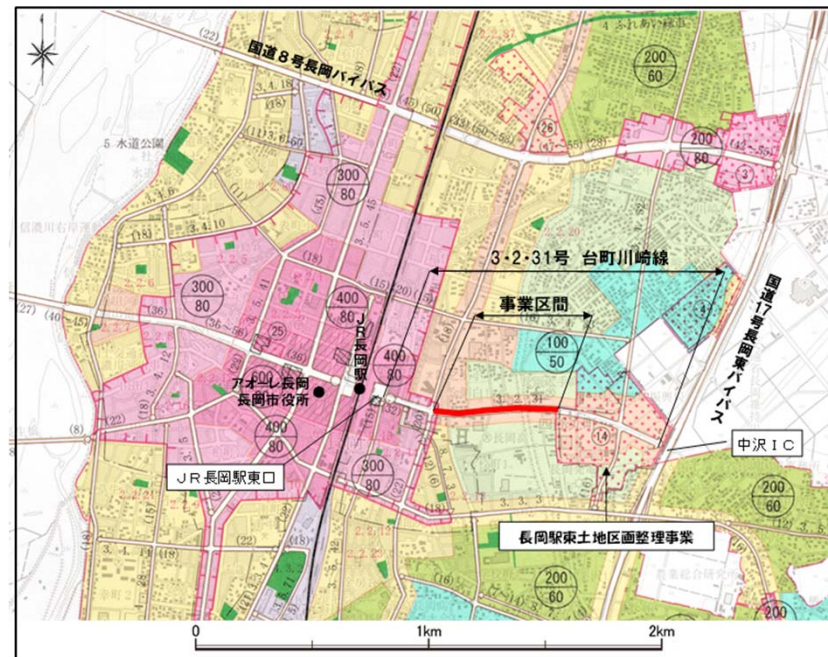
1

土地区画整理事業と連携、雇用創出と人口増加に寄与

- 台町川崎線は、土地区画整理事業と連携して広域交通体系や中心市街地へのアクセスに優れる市街地を形成しました。
- その結果、商業施設と住宅地が立地し、また、既成市街地でも商業施設の回帰や住宅高層化があり、雇用創出と人口増加に寄与しました。



位置図



台町川崎線周辺地区の事業所・従業者数の推移

資料) 総務省：経済センサス

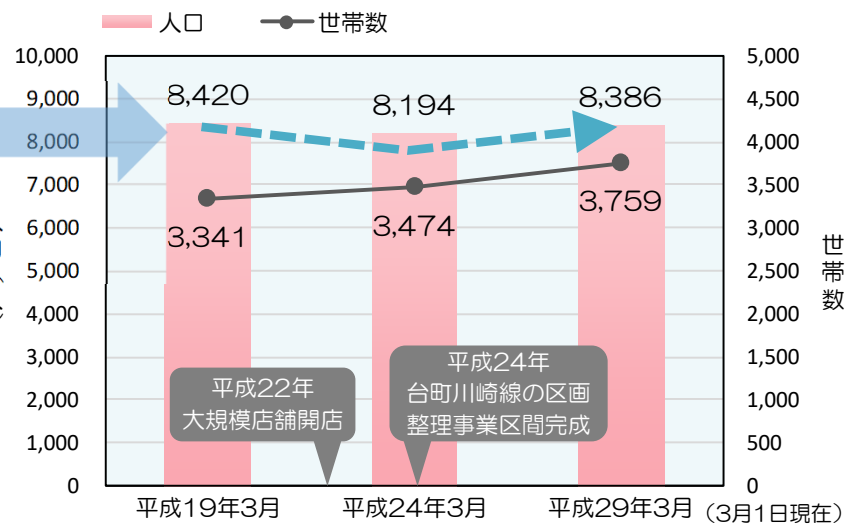
保留地処分面積の売却率

資料) 長岡市提供データ

事業所数

長岡駅～国道17号のネットワーク完成後に減少傾向から増加に転換

人口(人)



台町川崎線周辺地区の世帯数・人口の推移

資料) 住民基本台帳

整備効果アピール資料

整備効果

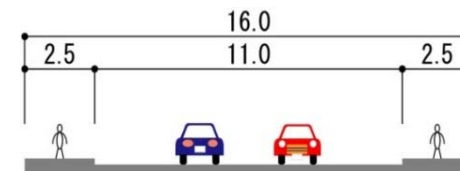
2

防災機関の連絡路や住民等の避難路、地域防災力の向上に寄与

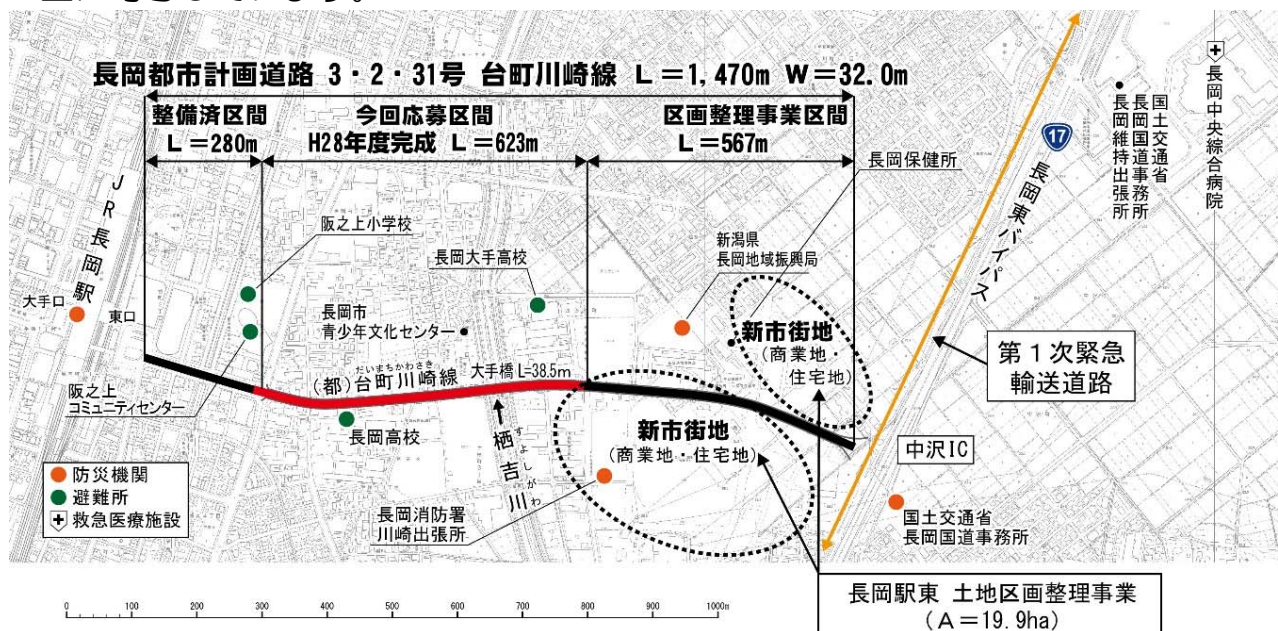
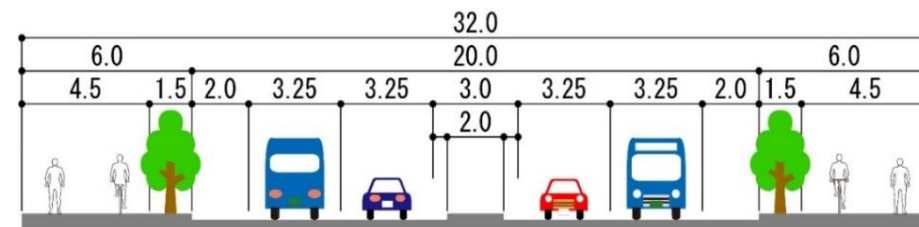
- 台町川崎線は第1次緊急輸送道路である国道17号長岡東バイパスと防災機関やJR長岡駅を連絡する道路で、災害発生時には応急復旧にかかわる「ひと」「もの」の移動・輸送を行います
- 周辺には避難所も分布し、住民の避難路としても機能します。
- これら重要な役割を持つ道路が、JR長岡駅～国道17号長岡東バイパスと直結し、かつ、幅員32mで電線類を地中化した信頼性の高い道路構造となったことで、地域の防災力が向上に寄与しています。
- 大手橋が2径間から1径間になったことで河積が拡大し、流下能力の向上に寄与しています。

標準断面図

整備前



整備後



1径間となり河積が拡大

事業後

平成29年11月撮影

大手橋

JR長岡駅と高校等を連絡する安全で快適な歩行者・自転車の通行空間を確保

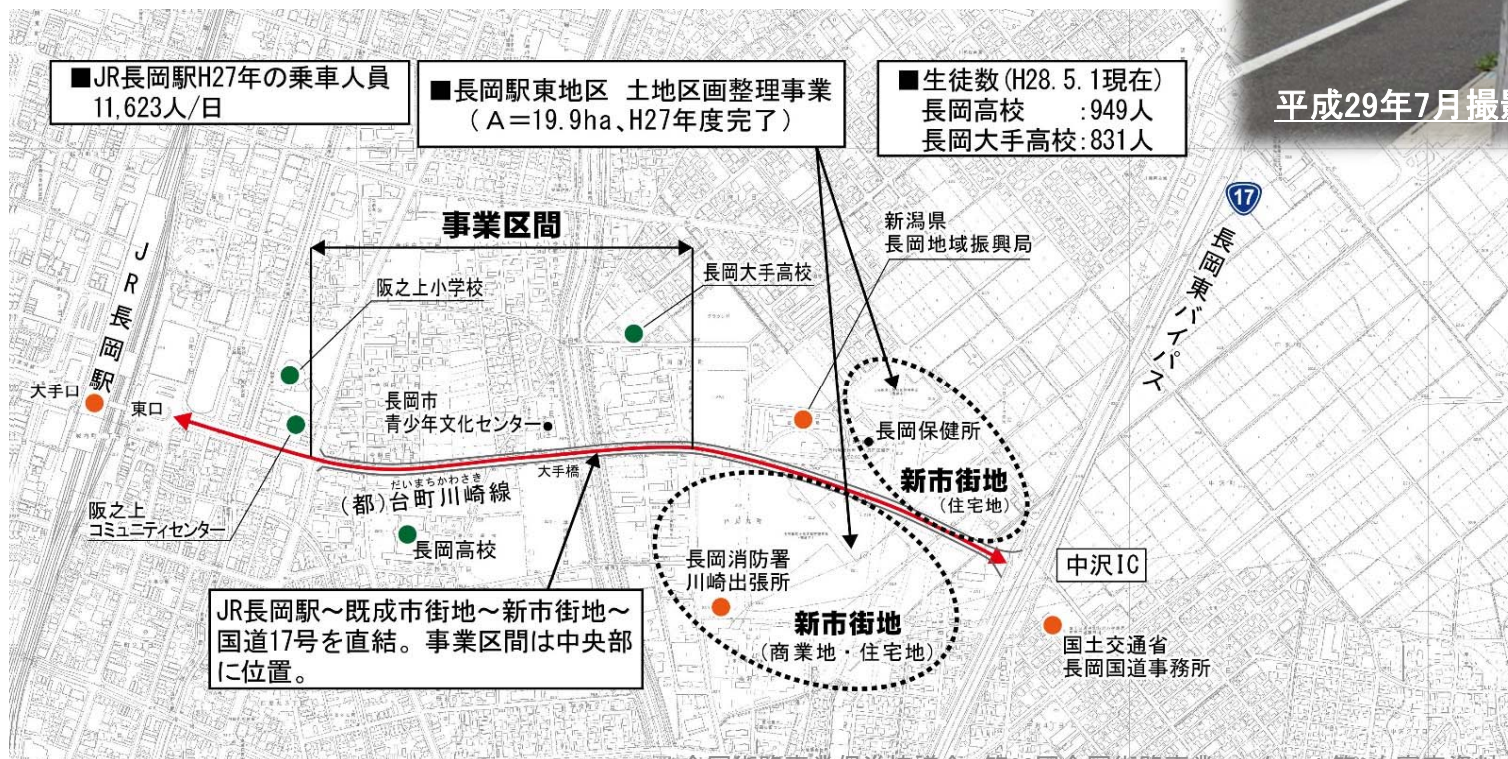
- 事業実施により歩道幅員が拡大し、朝ピーク時間においても歩行者が車道にはみ出すことなく安全・快適・円滑に移動できるようになりました。また、バリアフリー化もなされ、移動円滑性が向上しました。
- さらに、長岡市「自転車ネットワーク計画」(H27.3)において、台町川崎線は基幹ネットワークに位置付けられている中、自転車通行空間を確保したことで、円滑性・安全性が向上しました。



事業後

平成29年7月撮影

通勤通学時の通行状況



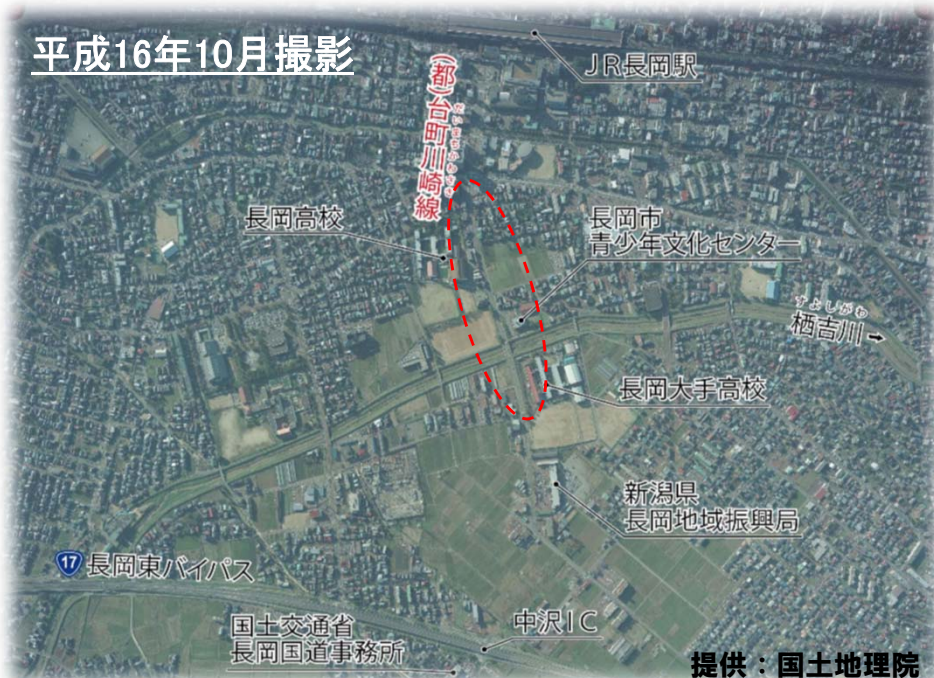
交通量調査結果

[事業後、H28.6.10(金)、実測]

自動車 : 7, 615 台/12h
歩行者 : 1, 800 人/12h
自転車 : 1, 018 台/12h

事業前写真

平成16年10月撮影



提供：国土地理院

▲航空写真

平成17年5月撮影



▲車道を走行する自転車

全国街路事業促進協議会 第30回全国街路事業コンクール第2次審査資料

平成17年5月撮影



▲車道へはみ出して歩く歩行者

平成17年5月撮影



▲[沿道状況] 駅から1km圏内だが田畑が目立つ

事業後写真

平成28年10月撮影



▲航空写真

平成29年7月撮影



▲自歩道を快適に利用する歩行者・自転車

平成29年7月撮影



▲車道と自歩道の分離利用状況

平成29年7月撮影



▲[沿道状況] 整備後、田畑が市街地へ

事業後写真



平成30年2月撮影

▲冬期車道状況



平成29年4月撮影



平成29年4月撮影



平成30年2月撮影

▲冬期歩道状況



平成29年7月撮影

▲通学の様子

事業後写真

平成29年4月撮影



平成29年6月撮影



平成29年6月撮影



高等学校の体育祭で台町川崎線の歩道を走行

栖吉川を渡河する
競争を大手橋で観戦



平成29年7月撮影



▲バス停利用状況

▲学校用地と一体的に整備された台町川崎線を活かしたイベント
(体育祭)